

様式 1 1

「川づくり団体」部門

河川基金助成事業

「川でつながるSDGsの学び
身近な川から「地球環境のつながり」を知る

助成番号： 2023-6111-008
特定非営利活動法人 e-plus生涯学習研究所
代表者氏名 小林 由紀子

2023 年度

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2023-6111-008	「川でつながる SDGs の学び～身近な川から「地球環境のつながり」を知る」	特非) e - p l u s 生涯学習研究所 小林由紀子
助成事業の要旨	活動の目的	
	子ども達に川の体験やプロジェクトWETやWILDのアクティビティを通して疑問や興味を持った事柄を関連させ川や水について連続授業をできるプログラムを活用し、積極的に学ぶ仕組みを作る。簡単にタブレットと調べ学習ができるように自分で学ぶ姿勢を応援する。地域の自然を知り、愛することが持続可能な社会のために活動と知り実践する力をつける。また、気候変動に伴う大雨や災害に対応する力を川の学習を通じて学ぶ。	
	事業テーマ	(川でつながる SDGs の学び～身近な川から「地球環境のつながり」を知る
	【実施内容】 岐阜県内で実施されたプロジェクトWET・WILの「驚異の旅」「川を汚したのは誰」「みんなのトンボ池」の3つのアクティビティを活用した2時間×3回を基本とした汎用水環境プログラムは、県内では16校、岐阜市内では7校が学習しました。SDGsを意識したこのプログラムは新たな学校やその一部の授業を行う学校も増えました。また、美濃加茂市環境課と協力して行われた「SDGsと海洋プラスチック」の授業は美濃加茂市の5校や市民講座でも実施されました。夏の親子講座では水や川、歴史に関連するテーマの工作とこの学習を行い、環境イベントでは学習活動や海洋プラスチックをテーマに発表しました。身近な川や地球環境との関連を結びつけ、自分にできることを考えるきっかけとなりました。水の学習は気候変動と関連させ、防災に関する啓発活動としても行いました。これらの汎用プログラムを活用した授業を行った学校では先生方に対してアンケート調査をしました。	
	【成 果】 アンケートでは意見が得られました。 ①アクティビティを活用したことで学習の理解が深まった。②全学校が今後もこの学習を続けていきたいと考えている。③子どもたちが楽しみながら学んでいる姿が見られた。④クイズワークシートなどの教材に満足している。⑤川での体験活動のある学校では、川の体験に非常に満足しており、今後も継続して行いたいとの声がありました。総合評価では、授業内容が適切であり、水や川について十分に理解できたとの意見があり、来年も同じ授業を行いたいとの意向が示されました。 また、今年度は「総合的な学習の時間」の中で、水環境をコアに環境全体を学ぶ年間プログラムを組んだ学校が8校ありました。SDGsの学習により、環境のつながりを理解し、持続可能な川や生き物などの環境保全に興味を持つようになり、「持続可能な川づくり」への意識が高まったと考えられています。水環境の学習を通じてSDGsの概念を知り、自然と社会と生活を結びつけて考えることで、生き物を守る気持ちが育ち、SDGsに向き合い、生活の中での実践を選択する意欲が高まったようです。これまでの体験と学習を結びつけた体系化が有効であることが実証されました。3回の授業を行う学校が増え、学校や自治体との連携が深まることで、授業内容が充実していくことが観察されました。また、海洋プラスチックの授業後には近所の川の近辺のゴミ掃除を始めた学校もあります。 昨年度の授業の様子を振り返ると、はさみやのりを使った作業に時間がかかり、話合いの時間が少ないグループがあったため、教材の提供方法を改善しました。特に「みんなのトンボ池」ワークショップに関しては、子どもたちが話合いや発表の時間を増やすため、講師側には負担がかかりますが、準備を整えて行うようにしました。	
	【今後の展望】 アンケートで得られた改善点を今後の授業に生かしていきたいと考えています。文字の大きさや話し方だけでなく、手順やアクティビティの順番など、授業をよりわかりやすく説明することを目指しています。「聞いたことは忘れる。自分で調べて話すことは自分のものになる」という言葉を理解し、教えすぎないことの重要性を認識しています。自主性を引き出す授業の取り組みと体験活動を継続して行っていく。さらに、今後もストーリーのある授業を通じて実践に結びつく学習を目指しています。	

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2023-6111-008	「川でつながる SDGs の学び～身近な川から「地球環境のつながり」を知る」	特非) e - p l u s 生涯学習研究所 小林由紀子

助成事業実施成果の自己評価	【計画の妥当性】 「水環境の体系化」学習を進展させた体験と知識を融合し、水や川を楽しく学ぶプログラムは今年度ではほぼ完成しました。アンケートを実施したところ、3回のプログラム学習を受けた学校のすべてが来年度の継続を望んでいます。1回だけの授業ではなく、学ぶ目的を決め、ストーリーのある体系的な学習が肯定的に評価されました。さらに、SDGsの視点を加えた海洋プラスチックを川のテーマとして学ぶことで、環境問題全体への関心が高まる傾向が見られました。SDGsを学びたい学校の要望に応えるため、水環境をコアにした年間7回から10回の授業（12～20時間）学習スケジュールを組んだ学校もありました。ストーリーがわかりやすく内容が充実していたことや、実践や発表をプログラムに組み込んだことが好評でした。また、美濃加茂市のように、1回の学習でも内容を吟味しワークシートで進めた学校もあり、地域の川に目を向けて子どもたちの意志で新たに掃除の実践を行っての道路掃除の、海洋プラスチックの流出防止有用性を確認した学校もありました。先生方だけでなく、子どもたちからの感謝の手紙を10校以上から受け取り、その純粋な気持ちに感激しています。この学習を導入した学校が次の学年の先生に伝え年々多くの学校が受講しています。 【当初目標の達成度】 自治体と協働したことにより、川の体験学習を行っている学校を中心に学習を進めることができました。SDGsの視点を水環境の学習に取り入れたことは学校の目標とも合致し、SDGを説明しようとする概念的になって子どもたちには理解しにくいことが海洋プラスチックを取り上げたことにより身近な川のごみと海洋プラスチック、自分の生活と環境問題を結びつけることができました。また、4年生の社会で学んだ3Rの実践が有効であることが、川の周りの掃除などの実践に繋がりました。当初の見込み通りに水の学習を、動物をテーマにすると子どもたちは「自分事」ととらえやすいこと、インターネットではSDGsの情報がたくさんあり「キーワード」で検索しやすく調べやすいことが「調べ学習」の充実につながり、「自分にできること」を考える足がかりになってわかりやすいストーリーになりました。「川を汚したのはだれ」の目で見るインパクトもありました。4人で構成した「みんなのトンボ池」のワークショップで自分で考え意見を出すことの重要性を知ったことなどが、先生方から高い評価を得ました。アクティビティやワークショップを通じて、普段は消極的な子どもたちが積極的に発言している様子に驚いた先生が多かったです。「自分にできること」が「地域でできること」「流域でできること」「国を超えてできること」としてSDGsの学びに繋がったと評価されました。 【助成事業の効果】 自治体が水生生物調査を行う学校にプログラムを積極的に紹介したため、このプログラムで川を学びたい学校が増えました。SDGsを学ぶわかりやすいテーマを探していた学校も多く1回だけの授業もありました。今回の岐阜の学校では、学習を行った学校には校区に一級河川がありました。普段何となく目にしている川を意識し、川の生き物、生き物から汚れ、世界をめぐる水について子どもたちは初めて知ることが多くありました。「驚異の旅」のアクティビティや「川を汚したのはだれ」の実験は楽しく学べるので環境への興味を持ち調べると、人間が水や環境が害して命を落とす生き物が多くいることを知りました。また、「みんなのトンボ池」では、川の生き物を守ることの難しさや生物多様性の保全には世界の人々が力を合わせる必要性を学びました。世界のことで、身近な川を行き来して自分にできる小さな取り組みが世界につながることを学んだ子どもたちは、SDGsと学習を融合して学んだ内容を他の学年に広めています。この学習を通じて、近くの川の道路でゴミ拾いを始めた子どもたちや、集会で他の学年に今全校で行っている道路掃除の有用性を訴え、「頑張る気持ち」を伝えた学年もあります。彼らを「やる気」にさせることができたことに満足しています。 【河川管理者等との連携状況】 当NPOが木曽川河川協力団体として活動を登録している河川環境楽園は、水生生物調査など河川の体験活動を行っています。岐阜県県土整備部河川課とは地域の川での活動を行っており、技術検査課、岐阜県里川振興課、岐阜県水産研究所、岐阜市環境部環境保全課、美濃加茂市環境課、御嵩町環境モデル都市推進室とは小学校の川体験や学習においても連携を行っています。 【キーワード】 SDGs プロジェクト WET 海洋プラスチック アクティブラーニング
---------------	---

はじめに

岐阜県は 25 年前より「清流」を目指し生活排水を減らす「ブルーリバー作戦」を行っており「川をきれいに」が合い言葉でした。学校では岐阜県では「川にカワゲラがいたらいいな」と水性生物調査は「カワゲラウォッチング」の愛称で全県に体験活動が広まり身近な川を意識する学校が増えていました。この「カワゲラウォッチング」担当を行っている講師から「体験だけでは川や水質の知識が広がらない」「川をきれいにする実践にはつながらない」と心配する声があがりました。そこでブルーリバー作戦のパンフレット編集に携わった私がこの内容を広めるために小中学校にゲストティチャーをすることとなりました。

授業では「川の体験」「日常」ではなく特別な遠足のような感覚で捉えられ、生活の中でできごとではないので身近な実践に結びついていないと感じました。水の知識が必要ですが「川の汚れ」と「生活排水」の知識と「水生生物調査」の体験と結びついていないことが分かりました。「授業は楽しい」と子ども達が感じる楽しい授業としたいと考え、環境教育プロジェクト WET の「驚異の旅」アクティビティを授業に加えることを決めました

月	日	学 校 名	人数	内 容
6	1	海津市立吉里小学校 5 年	11	水の話
6	1	海津市立吉里小学校 5 年	11	水の循環(驚異の旅アクティビティ)
6	22	海津市立吉里小学校 5 年	11	川を汚したのはだれ
7	11	海津市立吉里小学校 5 年	11	河川環境楽園 水生生物調査
7	11	海津市立吉里小学校 5 年	11	プラスチックの海
9	25	海津市立吉里小学校 5 年	11	みんなのとんぼ池ワークショップ
1	19	海津市立吉里小学校 5 年	11	SDGs とパーム油 生物多様性
3	6	海津市立吉里小学校 5 年	11	SDGs でつなぐ気候変動と海洋プラスチック
6	7	海津市立石津小学校 4 年	37	SDGs でつなぐ気候変動と海洋プラスチック
6	20	海津市立石津小学校 4 年	37	気候変動適応策防災と緩和策省エネルギー
9	25	海津市立石津小学校 4 年	37	水の話
9	25	海津市立石津小学校 4 年	37	水の循環(驚異の旅アクティビティ)
11	21	海津市立石津小学校 4 年	37	河川環境楽園 水生生物調査
11	21	海津市立石津小学校 4 年	37	河川環境楽園 川を汚したのはだれ
11	21	海津市立石津小学校 4 年	37	河川環境楽園 プラスチックの海
1	23	海津市立石津小学校 4 年	37	みんなのとんぼ池ワークショップ
5	23	美濃加茂市立井深小学校 4 年	18	水の話
5	23	美濃加茂市立井深小学校 4 年	18	水の循環(驚異の旅アクティビティ)
11		美濃加茂市立井深小学校 4 年	18	SDGs と海洋プラスチック
1	16	美濃加茂市立井深小学校 4 年	18	水生生物調査
1	16	美濃加茂市立井深小学校 4 年	18	川を汚したのは誰
1	16	美濃加茂市立井深小学校 4 年	18	プラスチックの海
1	13	美濃加茂市立井深小学校 4 年	18	みんなのとんぼ池ワークショップ
10	19	大垣市立安井小学校 4 年	101	川を汚したのはだれ
10	19	大垣市立安井小学校 4 年	101	SDGs と海洋プラスチック

3	13	大垣市立安井小学校 4 年	101	気候変動 大垣の川と防災
6	29	各務原市立那加第 3 小学校 4 年	80	水の話
6	29	各務原市立那加第 3 小学校 4 年	80	水の循環(驚異の旅アクティビティ)
7	14	各務原市立那加第 3 小学校 4 年	80	川を汚したのは誰
7	14	各務原市立那加第 3 小学校 4 年	80	SDGs と海洋プラスチック
11	29	各務原市立那加第 3 小学校 4 年	80	SDGs とパーム油と生物多様性
12	1	各務原市立那加第 3 小学校 4 年	80	家庭の省エネルギー間取り図ゲーム
12	21	各務原市立那加第 3 小学校 4 年	80	まとめの授業 気候変動の適応策 環境はつながっている
3	12	各務原市立那加第 3 小学校 4 年	80	みんなのとんぼ池ワークショップ
10	16	羽島市立中央小学校 5 年	148	水の話
10	16	羽島市立中央小学校 5 年	148	水の循環(驚異の旅アクティビティ)
12	11	羽島市立中央小学校 5 年	90	川を汚したのは誰
12	11	羽島市立中央小学校 5 年	90	SDGs と海洋プラスチック
12	12	羽島市立中央小学校 5 年	58	川を汚したのは誰
12	12	羽島市立中央小学校 5 年	58	SDGs と海洋プラスチック
12	19	羽島市立中央小学校 5 年	148	みんなのとんぼ池ワークショップ
10	29	各務原市蘇原第一小学校 4 年	138	水の話
10	29	各務原市蘇原第一小学校 4 年	138	水の循環(驚異の旅アクティビティ)
11	27	各務原市蘇原第一小学校 4 年	138	川を汚したのは誰
11	27	各務原市蘇原第一小学校 4 年	138	SDGs と海洋プラスチック
12	19	各務原市蘇原第一小学校 4 年	138	みんなのとんぼ池
1	12	岐南町立岐南北小学校 4 年	57	水の話
1	12	岐南町立岐南北小学校 5 年	57	水の循環(驚異の旅アクティビティ)
1	19	岐南町立岐南北小学校 6 年	57	川を汚したのは誰
1	19	岐南町立岐南北小学校 7 年	57	SDGs と海洋プラスチック
2	1	岐南町立岐南北小学校 8 年	57	みんなのとんぼ池
10	15	岐阜市立三里小学校	128	SDGs と海洋プラスチック
5	30	美濃加茂市立古井小学校 4 年	161	SDGs と海洋プラスチック
9	20	美濃加茂市立蜂屋小学校 4 年	66	SDGs と海洋プラスチック
12	20	美濃加茂市立三和小学校 5 年	8	SDGs と海洋プラスチック
2	9	美濃加茂市立下米田小学校 6 年	70	SDGs と海洋プラスチック
6	14	岐阜市立長森南中学校 1 年	119	水の話
6	14	岐阜市立長森南中学校 1 年	119	水の循環(驚異の旅アクティビティ)
6	28	岐阜市立長森南中学校 1 年	119	SDGs と海洋プラスチック
10	4	岐阜市立長森南中学校 1 年	119	河川環境楽園の見学に向けて
10	17	岐阜市立長森南中学校 1 年	119	水生生物調査
10	17	岐阜市立長森南中学校 1 年	119	川を汚したのは誰
11	17	岐阜市立長森南中学校 1 年	119	気候変動適応策としての川の防災、適応策

1	26	岐阜市立長森南中学校 1 年	119	水の活用・地中熱と足湯・再生可能エネルギー
7	14	岐阜県立中濃特別支援学校 高等部	33	水の話
7	14	岐阜県立中濃特別支援学校 高等部	33	水の循環(驚異の旅アクティビティ)
10	30	岐阜県立中濃特別支援学校 高等部	33	河川環境楽園 川を汚したのはだれ
11	24	岐阜県立中濃特別支援学校 高等部	33	プラスチックの海
12	15	岐阜県立中濃特別支援学校 高等部	33	SDGs と海洋プラスチックの話
		小計	4718	
8	20	笠松町夏講座マッピング	15	SDGs と海洋プラスチック
8	22	関市夏講座マッピング	25	SDGs と海洋プラスチック+長良川の歴史
11	25	美濃加茂市リース作り	50	水と水を育む森の話。森の恵で作るリース
12	2	笠松中央公民館リース作り	23	水と水を育む森の話。森の恵で作るリース
10	10	関市環境フェア	200	水環境学習の活動発表・SDGs と海洋プラスチック・気候変動
10	15	美濃加茂市環境フェア	180	水環境学習の活動発表・SDGs と海洋プラスチック・気候変動
2	25	御嵩町環境フェア	170	水環境学習の活動発表・SDGs と海洋プラスチック・気候変動
		イベント 小計	663	
12	5	岐阜市生活学校・女性の会	58	SDGs と海洋プラスチック
2	28	美濃加茂市 デイケアみのり研修会	23	SDGs と海洋プラスチック
3	6	美濃加茂市 市民団体(萬尺寺)	38	SDGs と海洋プラスチック
		小計	119	
		総合計	5500	

今年度、河川基金で開発したこの水環境学習プログラムを利用して学習を行った参加者は実数で 1127 人、延べ人数計 4718 人でした。

岐阜県内で当 NPO がこのプログラムの授業を行った学校は、実数合計 1728 人、延べ人数 8151 人の子どもたちが水環境について学びました。環境フェアには 550 人が参加しました。

青字は今回の水環境プログラムに SDGs の視点を加えた環境のつながりをテーマに追加して総合的な学習の時間として年間プログラムを作り実践しました。

表に入れたこれらの学校は 3 回のプログラムを完了しました。また、岐阜市と協働で行ったこのプログラムの学習校は、岐阜市立且格小学校・柳津小学校・本荘小学校・岩野田北小学校・厚見中学校、単発のプログラムは岐阜市立七郷小学校と長良小学校 1 つプログラムで行いました。いずれも岐阜市環境保全課が川の体験学習を行っている学校です。参加者は実数で 601 人、のべ総計 3433 人でした。

岐阜市と協働で、以下の学校でこのプログラムを実施しました。

水環境の体系化プログラム

本年度の授業時間を2時間に設定し、教材を作成しました。小学校の45分の授業時間を最大限に活用できるように工夫し、ほとんどの学校のスケジュールに対応できるようになりました。汎用プログラムを基盤にし、学年に合わせてプログラムを組み立て子どもたちが自ら楽しみながら学び、調査する授業を目指しています。

プログラム紹介

1回目の授業：『水』を科学的に探求しよう

①-1：水の解説

地球上の水の現状について数値を提示し、水が希少な資源であることを説明します。

アクアボディのないようにについて動物の体内の水分や植物の水分についてクイズ形式で学習します。

①-2：プロジェクト WET のアクティビティ「驚異の旅」

参加者が水の分子となって、サイコロを振り、出た数に応じて移動することで、水の循環を体験し、水がどのように決まった場所に移動するかを学びます。

2回目の授業：身近な川から世界の海を考える

②-1：プロジェクト WILD の「川を汚したのは誰」

近くの長良川や木曽川をイメージしながら、川の上流から下流に向かって水のストーリーを読みながら、参加者一人ひとりが主役となって「川の汚れの模擬水」を水槽に注いでいきます。このストーリーでは、プラスチックのごみも取り入れられています。

②-2：「海洋プラスチック」の解説

SDGsの視点から、「海洋プラスチック」を通して「川と海のつながり」を学びます。

ウミガメなどの海洋生物を例に挙げ、海の汚染の状況を写真で示します。また、アジアの国々の川の状況や、海洋汚染の80%が川から流れ込むことを紹介し、世界の海の状況について知識を深めます。

以上の授業では、水質の概念を理解しやすくし、学習を進めます。そして、ごみと水の汚染がどのように関連しているかを説明し、子供たちに環境問題に対する理解を深める一助となることを目指しています。

例として 2時間×3時間 5つのプログラムを行った羽島市立中央小学校5年生

羽島市立中央小学校を例に 11月～12月 集中して学習をした

1回目	2回目	3回目
水の話	川を汚したのはだれ	みんなのとんぼ池
		
水の循環「驚異の旅」	海洋プラスチックについて	みんなのとんぼ池
		

2時間×1 2つのプログラムを使った岐阜市立三里小学校 6年生

令和5年度初めての学校です「SDG sと環境問題」をテーマに自分事として実践に繋がる学習を希望され、令和6年度の依頼を頂きました

岐阜市立三里小学校の学習

SDG sの視点での環境活動を学びたい 「川を汚したのは誰」+「海洋プラスチック」をテーマに



川の体験活動の有効性

それぞれの学校の事情に合わせて行う体験活動（地域の川・河川環境楽園）体験活動

近くの川の水生生物調査・川歩きができることが望ましい。近くの川に入る場所がない学校のために河川環境楽園の体験と見学を行った。

河川環境楽園の木曽川水園で知る森と川のつながり川の生き物や河原のプラスチック被害の様子を知る。「プラスチックの海」アクティビティで食物連鎖を通して知る生物のつながり

冬の水生生物調査 河川環境楽園 伊深小学校



岐阜市内小学校 地域の川での水生生物調査



③みんなのトンボ池ワークショップ

「みんなのトンボ池」で生き物と共生する町作りを考えることで「驚異の旅」で学んだ水の循環「川を汚したのは誰で実感した水質」「動物の被害から知ったプラスチックゴミ」の授業から学んだことと調べ学習で調べた知識を生かします。「トンボ池を汚さないで生き物の生息空間を作る」を目標に土地の利用者となって考えるシミュレーションゲームで仮想でトンボ池の周りに町を作るのが目的です。自分の役割になりきって町作りをします。年度末に環境学習のまとめとして使う学校が多いようです。また 岐阜県では校区を流れる川が身近でなじみ深いため『川の学習＝ふるさと教育』として学習する学校も多いようです。

水環境学習の体系化の進化形

持続可能な川づくり SDG s から見た水環境を考える学習とした

①総合的な学習の時間へのアプローチ「水環境」を中心に年間プログラムを組む

プログラムを元にSDG s の視点を加え「気候変動」「防災」3R などの環境問題を学び「環境のつながり」を考えました。水環境のプログラムは学習のコアとしてスケジュールを組み詳しく学び、他の環境問題に広げました。

②アクティブラーニング「川を汚したのは誰」「みんなのとんぼ池」は 45 分の授業時間を守るために教材の工夫と準備を行い話し合いや発表の時間を確保した。

今年度は教材の建物のカードに切れ込みを入れ、地図も子ども達書き込むのではなくこちらでテープを使い、少しずつ道路の形状が違う地図を配布したところ建物の配置も考え方もバラティティにとんだ仕上がりになりました。また、90 分の授業で 30 分以上話し合いの時間が取れるようになり、子どもたちが活発に意見を交換できるようになりました。

このプログラムは自治体の担当者から評価されています。岐阜市では市内の学校に対して環境学習のプログラムガイドを作り授業の受講校を募集したところ『水生生物調査』を行っている学校から多くの応募があり徐々に活動が広がっています。今回はこのプログラムを行っている県下 20 校あまりの学校（単発の授業講は除く）に対してこの授業を受けて学校での学習としてどのように感じたか子ども達の学習が進んだかを聞き、継続されるかどうか意志をアンケートで聞きました。学校は小学校の総合的な学習の時間が減少している中、「体験活動+2 時間×3 回」の授業の時間を取ることは大変です。当 NPO としても学校のニーズに合わせアクティブラーニング手法に SDG s の学習を採り入れ内容を加えてきました。この学習の成果についてと改善点についても聞いています。

■教材の改善

みんなのとんぼ池の話し合いの時間を多く使いたい

授業時間の 45 分×2 を十分に生かせるように、教材の準備を工夫し、学校のスケジュールに対応できるようになりました。例えば、「みんなのとんぼ池」では、ワークショップの下準備、学校ごとに要望に応じたワークシートを作成などきめ細かく授業を展開しました。時間短縮と学習の確認のためにも、ワークシートの工夫が大切でした。意見交換、発表などアクティブラーニングの手法も全ての授業に取り入れました。これらの手法を通じて、子どもたちが積極的に学び、参加することができる環境を整えました。

3R とプラスチッククイズ 3R についてのクイズです。正しいと間違えを書きましよう！ ① 資源を有効に使うための 3R です。ごみを減らすためには「リデュース」「リユース」「リサイクル」の 3R があります。下のことから選びましよう。 ② 資源を有効に使うための 3R です。ごみを減らすためには「リデュース」「リユース」「リサイクル」の 3R があります。下のことから選びましよう。 ③ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ④ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ⑤ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ⑥ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ⑦ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ⑧ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ⑨ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ⑩ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ⑪ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ⑫ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ⑬ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ⑭ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ⑮ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ⑯ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ⑰ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ⑱ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ⑲ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ⑳ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㉑ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㉒ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㉓ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㉔ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㉕ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㉖ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㉗ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㉘ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㉙ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㉚ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㉛ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㉜ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㉝ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㉞ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㉟ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㊱ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㊲ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㊳ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㊴ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㊵ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㊶ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㊷ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㊸ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㊹ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㊺ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㊻ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㊼ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㊽ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㊾ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります） ㊿ プラスチックのマークはどれでしょう（2 つあります）	海洋プラスチッククイズ ① 私たちの身の回りにプラスチックでできた物は少ない。 ② 海のない岐阜県でも海洋プラスチックは関係がある。 ③ 海洋プラスチックは海岸に捨てられたものだけである。 ④ 海洋の漂着物の海洋プラスチックの中で一番数が多いものは何でしょう。 ⑤ 漁網で使う釣り糸（チグス）は毎年で分解するでしょうか？ ⑥ 海洋プラスチックの量は年々多くなると予測されているのは何年でしょう。 ⑦ 紙のリサイクルで出していないものはどれでしょう？ ⑧ プラスチックの原料は何でしょう？ ⑨ SDG s 目標 14「海の豊かさを守ろう」についてあなたの考えた事や今日の授業で学んだことを書いてましよう。 ⑩ SDG s の取り組みで大切な事（しゅりょう）です。 《エコロジカルフットプリント》
--	---

■ 波及効果

今回のアンケート結果で学校の授業とともにこのプログラムを採用することで環境学習が進むことが分かりました。3回の授業を受けた全学校が来年度もこの学習を望んでいます。また、この学習を行った学校は子ども達の自主的な学習が進みます。1年間の発表時には環境問題に対する理解が深くなっており家庭で「自分にできること」を実践する子どもが具体的に課程や他学年に話しているようです。

大垣市小学校 1 校、羽島市立小学校 2 校、美濃加茂市 5 校、各務原市 2 校 海津市小学校 2 校、岐南町 1 校に特別支援学校がこれ以外にも岐阜市の 7 校、岐阜市中学校 1 校、このプログラムを行っています。転任された先生から今の学校でもこの学習を行いたいという要望が多いのも特徴の 1 つです。

■学習の成果（事業効果）

SDGs に関する学校からの要望が増え、さまざまな環境問題についての授業が求められるようになりました。”SDGs をテーマに様々な『環境もつながり』として SDGs の目標のテーマ番号を授業の初めに説明し⑫⑭をテーマにした海洋プラスチック”だけでなく、⑫⑭食品ロス、⑫⑭⑬パーム油、⑦⑬エネルギーなど、様々な授業が希望されています。様々な事象を他の国で起きている問題として理解することで終わるのではなく、環境問題を自分の生活や身の回りから捉え、私たちの生活の見えない部分と世界で起きている問題とのつながりを感じ取れるようなプログラムを作りました。自分の生活や身の回りのことと世界で起きている異変や問題を結びつけてその”仕組み”を理解していくためのステップです。

”私たちの NPO 法人では水環境学習プログラムの学習をコアに『環境のながり』を SD の視点で他の国で起きている様々な事象や問題と自分ごととして考えられるように 1 年間のスケジュールを組みました。環境問題を自分の生活や身の回りから捉え、私たちの生活の見えない部分と世界で起きている問題とのつながりを感じ手欲しいと考えています。自分の生活や身の回りのことと世界で起きている異変や問題を結びつけてその”仕組み”を理解していけるように説明を行いました。海洋プラスチック問題をテーマに授業を続けてみると、子どもたちは知っている動物（ウミガメや鳥、シロクマ）を例に挙げると、自分のことのように感情が動きます。その被害が自分たちの使っているプラスチックが原因である事を知ります。今の自身の生活と結びつけて考え調べて”自分事”として理解します。今回対象にした 4、5 年生は社会科で”ゴミとりサイクル”の学習を応用し、より具体的な家庭での実践や学校で仲間と道路掃除の活動や他者への呼びかけに結びつけることができたようです。SDGs に関する学校からの要望が増え、コロナ禍以降、さまざまな環境問題に関する授業が求められるようになりました。”海洋プラスチック”だけでなく、〈食品ロス〉、〈パーム油〉、〈エネルギー〉など、様々なテーマについての授業が希望されています。私たちの NPO 法人では水環境学習プログラムをコアに据え、「環境のながり」を SDGs の視点で他の国で起きている様々な事象や問題と自分ごととして考えられるよう、1 年間のスケジュールを組みました。環境問題を「自分の生活や身の回り」から捉え、私たちの生活の見えない部分と世界で起きている問題とのつながりを感じ「自分の生活や身の回り」のことと世界で起きている異変や問題を結びつけてその「仕組み」を理解できるように説明を行いました。今回対象にした 4、5 年生は社会科で”ゴミとりサイクル”の学習を応用し、より具体的な家庭での実践や学校で仲間と道路掃除の活動や他者への呼びかけに結びつけることができたようです。

環境学習のゴールはまさに〈自分事化〉にあります。〈自分事化〉とは、自分の周り（ローカル）の事柄に関心に向け、解決策や行動を考え実践し、問題意識を持ち続けることです。身近な事柄と外の世界とのつながりを意識できる話題を取り上げることが重要です。”自分が見える”世界からタブレットの情報を精査し、他者との対話を通じて新たな発見をする試みは、子どもたちが世界とつながる手助けになると考えられます。環境学習を通じて、地域や世界の問題に対する理解を深め、自らの行動につなげるステップを踏むことを目指します。

私たちの役割は、環境問題に客観的な視点で取り組み、子どもたちに伝えることです。彼らが世界とつながり、問題解決に向けて積極的に行動できるようサポートしたいと考えています。

プログラムの概要 2時間×3回 5つのプログラムを採用した学校

海津市立吉里小学校 今年で廃校です。とてもたくさんの活動ができました

S D G s と環境問題



川を汚したのはだれ



河川環境楽園 水生生物調査



プラスチックの海



みんなのトンぼ池



美濃加茂市立伊深小学校 木曽川中流河川環境楽園と上流支川大洞川との比較

水の循環「驚異の旅」



冬の水生生物調査



川を汚したのはだれ



木曽川水園の見学



みんなのトンぼ池



みんなのトンぼ池 発表



各務原市立蘇原第1小学校 理想的な3週間のインターバルで学習を進めた

水の学習



海洋プラスチックについて



驚異の旅



みんなのとんぼ池



川を汚したのは誰



みんなのとんぼ池



岐南北小学校 4年 みんなのとんぼ池のようす



SDGs を視点にした環境学習プログラムを組み水環境の学習コアに総合的な学習を行った学校

各務原市立那加第3小学校 7月水の循環から3月みんなのとんぼ池まで7回の環境の授業

川を汚したのはだれ



省エネについて



海洋プラスチックについて



みんなのとんぼ池



SDG s について



みんなのとんぼ池



海津市立石津小学校

前半を地球環境問題に後半を水環境の学習を行った

水の循環「驚異の旅」



水の話



河川環境楽園水生生物調査



川を汚したのはだれ



みんなのとんぼ池 発表



岐阜市立長森南中学校

1年間の環境学習のテーマは水を中心にとエネルギーまで

SDGsの視点で
環境問題を考える



水の循環の授業



河川環境楽園
水生生物調査



河川環境楽園
水生生物調査の同定



河川環境楽園
川を汚したのは誰



河川環境楽園
木曽川を見る



岐阜県立中濃特別支援学校高等部 地域の川を知る学習

驚異の旅



地域の川の地図を作る



事前学習の冊子作り



川を汚したのは誰



プラスチックの海



海洋プラスチックについて



美濃加茂市立の小学校 S D G s の視点で『海洋プラスチックの授業』を行う

古井小学校



三和小学校



蜂屋小学校



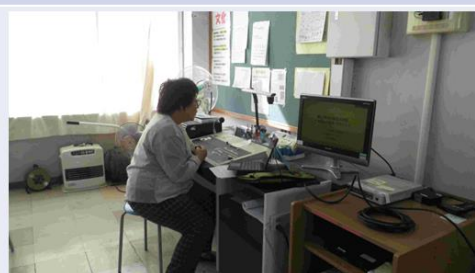
大垣市立安井小学校

2月に気候変動防災の授業を行いました

川を汚したのはだれ
理科室でカメラを使って



海洋プラスチックについて
放送室から教室へ放送



環境学習の成果でエコピープル大賞を頂きました

eco検定アワード2023
エコピープル大賞を頂きました

朝日新聞デジタル参考

<https://www.asahi.com/articles/photo/AS20231125002600.html>

エコピープル記事 東京商工会議所

<https://kentei.tokyo-cci.or.jp/eco/people/award/2023.html>

eco検定アワード2023 表彰式



環境省 第5回環境カウンセラー環境保全活動
表彰自然共生社会貢献賞（市民部門）受賞しました。

令和5年度岐阜市市政環境保全功労者表彰受賞しました。

岐阜新聞 2023年（令和5年）3月9日 木曜日 16



環境を考えて水を汚さない洗剤を選び、
アクリルたわしも必要なのか買う時から考えよう

岐阜新聞 掲載

【集計結果】

水環境プログラムアンケート総合結果 16 校

対象校 岐阜県下岐阜市 各務原市 羽島市 海津市 美濃加茂市 中学校 1 校 小学校 9 校（岐阜市小学校 6 校 中学校 1 校）

目的・川でつながる SDGs の学び～身近な川から「地球環境のつながり」を知る

・アクティビティと座学を組み合わせた水環境学習についての今後の希望について

【アンケートの分析】

河川基金グループは（以下河川グループ）ほとんどの学校が同じ学年で 5 年以上継続しています。その他の学校は岐阜市を中心にこのプログラムを行って 1 年～3 年目（岐阜市グループ）です
このアンケート結果を分析すると、以下のポイントが抽出されます。

1. アンケート概要:

- ・ 河川グループと岐阜市グループに分かれる。
- ・ 河川グループは「総合的な学習の時間」に「水の学習」が含まれる学校。

2. 満足度:

- ・ 河川グループの満足度は 100%、全体でも 93%が「とても満足」。
- ・ 全学校が 3 回の授業を希望。

3. 授業内容評価:

- ・ 1 回目のプログラムは大部分が満足だが、事業の進め方に改善の余地がある。
- ・ 2 回目のプログラムにおいて、実験と SDGs 関連の内容ともに評価が高かった。
- ・ トンボ池に関するプログラムは、学年が低いほど実施内容について説明が必要。

4. 体験活動:

- ・ 河川環境楽園での体験活動は全ての学校が良い体験をしたと報告。
- ・ 来年度も同様の活動を希望。

5. アクティビティに関する評価:

- ・ アクティビティを取り入れたプログラムは学びやすく、満足度が高い。
- ・ 来年度も同様の授業を受講したいとの意向がある。

6. グループ間の比較:

- ・ 河川グループと岐阜市グループはほぼ同様の結果。
- ・ 河川グループの先生方は次年度の指導案があり、理解が進んでいると考えられる。
- ・ 岐阜市グループでは事前の説明が不足している可能性がある。

7. 指導側の課題:

- ・ 人数の多い学校では説明不足や授業遅れが課題。
- ・ 初回の学校への説明方法について改善が必要。
- ・ 100 人を超える大人数の授業にはさらなる工夫が必要。
- ・ 指導者のアシスタントの養成が必要。

感想を含めて整理しました

1. プログラムへの満足度と支持の高さ：河川グループと岐阜市グループの両方で、授業内容やプログラム全体に対する満足度が高いことが示されています。特に、授業内容が学びやすく、今後も同様の授業を受講したいという意向が強いことが述べられています。
2. プログラムへの参加動機や支持の背景の違い：河川グループでは、指導案の継続や NPO の講師との直接

の打ち合わせなど長年の信頼関係が築かれており、プログラムの内容や実施体制に関する要素が支持されています。一方で、岐阜市グループではパンフレットや岐阜市職員を介した情報提供が主要な参加動機であり、講師と直接の事前の打ち合わせ時間が少なく説明が不足の部分があります。

3. グループ間の差異：河川グループでは指導案や講師との打ち合わせが進んでいる一方で、岐阜市グループでは事前の説明不足や授業遅れの問題があります。特に人数が多い学校では、授業内容の説明や移動などの時間管理が課題となっています。

4. 今後の課題：今後の課題としては、人数の多い学校への初回説明や授業内容の遅れの解決策が挙げられます。特に、指導者のアシスタントの養成や授業外の時間管理の工夫が必要とされています。

これらの分析結果をもとに、プログラムの改善や運営方針の見直しなど、今後努力していきます

アンケート結果

このプログラムを受けた **岐阜市グループ** と河川グループは **水色** の解答です。

岐阜市	とても満足	満足	どちらとも言えない"	不満	とても不満	無記入
基金のみ	とても満足	満足	どちらとも言えない"	不満	とても不満	無記入

① 今回の授業の内容に対する満足度について。

とても満足 6	満足 1	どちらとも言えない"0	不満 0	とても不満 0	無記入
とても満足 9	満足 0	どちらとも言えない"0	不満 0	とても不満 0	無記入

②3 回の連続授業でしたが満足しましたか。

とても満足 6	満足 1	どちらとも言えない"0	不満 0	とても不満 0	無記入
とても満足 9	満足 0	どちらとも言えない"0	不満 0	とても不満 0	無記入

③講師の教え方やコミュニケーションについての感想について。

とても満足 5	満足 4	どちらとも言えない"0	不満 0	とても不満 0	無記入 0
とても満足 7	満足 2	どちらとも言えない"0	不満 0	とても不満 0	無記入 0

④授業の進行や構成についてのご意見について。

とても満足 4	満足 3	どちらとも言えない"0	不満 0	とても不満 0	無記入
とても満足 8	満足 1	どちらとも言えない"0	不満 0	とても不満 0	無記入 0

⑤授業回数について

3 回連続 6	1 回 0	どちらでもよい 1	無記入 0
3 回連続 9	1 回 0	どちらでもよい 1	無記入 0

「どちらでも良い」の回答の学校は「水の循環」のみを行った

⑥ 希望テーマをお答えください

気候変動 4	SDCs 9	省エネルギー3	生物多様性 2	防災 4
3R・サーキュラーエコノミー3		その他 0	無記入 2	
気候変動 2	SDCs 7	省エネルギー2	生物多様性 1	防災 3
3R・サーキュラーエコノミー2		その他 0	無記入 1	

全体のプログラムに対する感想です

⑦授業で今後の改善点や期待する点:や回数等や内容について希望はありますか。

- ・ ありません、毎回楽しく勉強させて頂きました
- ・ 言葉の難しさがあるため理解するために時間が必要なのでキーワードを黒板に掲示できるとよいと思
- ・ とても興味深いのですが、教科内容や他の教育活動を考えると今年度の内容や回数がベストだと思った
- ・ 三回に分けて授業を行ったことでそれぞれの大切なポイントを押さえられた、今後も3回でお願いしたい。
- ・ 三回の出前授業のほかに川の実地体験ができるとよい

- ・ 職員だけでは学習の段取りが難しいことをサポートしてもらえ大変ありがたい。
- ・ パワーポイントの文字を少し少な目にして子供たちから一目見て理解できるようにして欲しい。

⑧「水の話」の内容についてはいかがでしたか？

とても学びやすい 1	学びやすい 2	普通 1	学びにくい 0	とても学びにくかった 0	無記入 3
とても学びやすい 6	学びやすい 3	普通 0	学びにくい 0	とても学びにくかった 0	無記入 0

⑩サイコロを使った「驚異の旅」アクティビティを通じての学びやすさは？

とても学びやすい 2	学びやすい 3	普通 0	学びにくい 0	とても学びにくかった 0	無記入 2
とても学びやすい 6	学びやすい 3	普通 0	学びにくい 0	とても学びにくかった 0	無記入 0

⑪従来の座学の授業と比較して、今回のアクティビティを通じての理解度はどう変わったか

大幅に向上した 2	向上した 3	あまり変わらなかった 0	悪化した 0	大幅に悪化した 0	無記入 2
大幅に向上した 6	向上した 3	あまり変わらなかった 0	悪化した 0	大幅に悪化した 0	無記入 0

⑫アクティビティを通じての学びについて、講師のサポートや説明に満足しましたか？

とても満足 3	満足 2	どちらとも言えない 0	不満 0	とても不満 0	無記入 2
とても満足 9	満足 0	どちらとも言えない 0	不満 0	とても不満 0	無記入 0

⑨「水の話」授業内容についてのご意見や感想を書いてください。

- ・ 人間以外のすべての生物、植物にも水は必要不可欠であるということが理解できたが、「旅」との関連が子供達にはわかりにくかった
- ・ 分かりやすかった
- ・ しずくちゃんの絵本の話がとても分かりやすくてよかった
- ・ 動物の体や野菜の水分が地球の水とどのようにつながっていくのかがよくわからなかった
- ・ 水の話とサイコロゲームが子供の中ではつながっていなかった、「使える水」は少ないことをもう少し強調して終わると記憶に残ると思う ※
- ・ 水の循環についてさいころゲームを用いて学ぶことで色々な場所を巡っていることが理解しやすくよかった
- ・ 興味深く拝聴した、思っていたより水が多かったり少なかったりすることに驚いた。
- ・ 社会科で水の学習を行ったあとだったため、学習がつながり理解しやすかった、地球規模等の内容で理解できていない箇所もあったが、水は私たちの生活とは切り離せないものなので現段階で全部を理解できなくても触れさせる大切さを感じた。
- ・ 何気ないゲームだと思いきや水の循環で意味深いものがあつた、楽しかったという感想が多かった。
- ・ 身近な「水」について知識とつなげて考えたり具体的な例を用いて考えたりすることができた、写真や図で詳しく説明があつたことがよかった。
- ・ 聞くだけでなくクイズ等も入れもらえメリハリをもって話を聞くことができた。
- ・ 動物の体や野菜といった身近なもので考えられたことや「%」という単位を使わずの説明だったので生徒にも理解しやすかったと思う。

⑬「驚異の旅」アクティビティについてのご意見や感想を書いてください。

- ・ 自分自身が“旅”することで水の循環の様子が良く理解できた。 楽しく学べた
- ・ サイコロゲームをやりながら理解していくので子供たちも楽しんでいてよかった。
- ・ 地球上の水がどのように循環していくのかが理解できゲームすることで海に長い間いることが体感できた。
- ・ ゲーム後にもくわしい説明があり、より深い理解に繋がった
- ・ 飲むための水にたどり着けないことを疑似体験できるところがよく考えられていると感じた。

- ・ 勝敗に拘った数名の児童がゲームの内容を理解せずゴールすることを目的と考えてしまっていることがもったいない。先生の説明はわかりやすかったので自分が子供に応じて支援できたのではと反省している
- ・ シールを張りながら水がどのように巡っていき、どのような姿に変わるのか楽しみながら学べた、子供たちも楽しそうに活動していた
- ・ サイコロの目に工夫があり、水の行方にもいろいろなものがあることが実感できた。
- ・ 理解力のある生徒はなるほどと水の環境について考えることのできる内容だった、理解が難しいと思われる生徒にとってもサイコロを振って移動したりシールを貼ったりといった活動は楽しかったようだ

⑭今後も、このようなアクティビティ型の授業があれば受講したいと思いますか？

はい 5	どちらとも言えない 0	いいえ	無記入 01
はい 9	どちらとも言えない 0	いいえ 0	無記入 0

⑮「川を汚したのは誰」アクティビティを通じて学びやすかったと感じましたか

とても学びやすい 4	学びやすい 2	普通 0	学びにくい 0	とても学びにくかった 0	無記入 0
とても学びやすい 9	学びやすい 0	普通 0	学びにくい 0	とても学びにくかった 0	無記入 0

⑯従来の座学の授業と比較して、今回のアクティビティを通じての理解度はどう変わりましたか

大幅に向上した 3	向上した 3	あまり変わらなかった 0	悪化した 0	大幅に悪化した 0	無記入 0
大幅に向上した 9	向上した 0	あまり変わらなかった 0	悪化した 0	大幅に悪化した 0	無記入 0

⑰アクティビティを通じての学びについて、講師のサポートや説明に満足しましたか

とても満足 4	満足 2	どちらとも言えない 0	不満 0	とても不満 0	無記入 1
とても満足 9	満足 0	どちらとも言えない 0	不満 0	とても不満 0	無記入 0

⑱今後もこのようなアクティビティ型の授業があれば受講したいと思いますか？

はい 6	どちらとも言えない 0	いいえ 0	無記入 1
はい 9	どちらとも言えない 0	いいえ 0	無記入 0

⑲「海洋プラスチックの話」の内容についてはいかがでしたか？

とても学びやすい 6	学びやすい 0	普通 0	学びにくい 0	とても学びにくかった 0	無記入 0
とても学びやすい 9	学びやすい 0	普通 0	学びにくい 0	とても学びにくかった 0	無記入 0

2回目の授業の感想

- ・ 海洋プラスチックの話はたくさん写真がありとても分かりやすかった。
- ・ 人間が出したプラスチックによって海の生き物にどれだけ影響を与えているのかがよく分かった
- ・ 身近な川は綺麗なように思えるが下流に流れていき、海がゴミが本校6年生は南知多で実際にゴミ拾いも行っていて実感がわくが実物のゴミの量それが一番近い海でも…と知っていくと驚きも大きいと思います。写真や資料を用いて自分事としてとらえることができました
- ・ 分かりやすく海洋プラスチックの問題を話されていたと思います
- ・ 実際の写真を用いて説明や、「プラスチックの海」を朗読で内容を理解しやすかった。
- ・ 授業から何ヶ月か後も子供たちは内容を覚えており、興味深く印象に残っていることが窺えた、道や川付近に落ちているゴミにも敏感になり自分の考えを話すことができています。
- ・ ウミガメ等の生物にも影響が出てくるというのが印象的で子供の心にも響いていた。
- ・ 子供たちの中で海に流れたプラスチックがなぜ問題になっているのかが漠然としたイメージだったが実際

に発生している解決すべき課題として実感できた。

- ・ 絵本や世界の国々の写真から海のない岐阜県でも実感を伴った理解につながった。
- ・ 難しい内容だが実態に合わせ必要な内容を取り出し、アクティビティを取り入れながらわかりやすく解説してもらえた。
- ・ プロジェクターの画像は一枚に一つにし、文字を大きくしてもらえると見やすいと感じた。

②① 「SDG s」についてふれています。内容や量は適切だったでしょうか。

- ・ SDG sに深入りしすぎると難しいため情報量は適量だった。良かった
- ・ 順番はよかった、身近な話題から入っていったので子供たちの興味をととても引いていた。
- ・ もう少し増やしてもよいと思います、内容は良かったです

②② 「川を汚したのは誰」の次に「海を汚したのは誰」という問いも含めて「海洋プラスチック」について話しています。順番は適切でしょうか。

- ・ 適切だと思います。良かった。理解しやすい流れでした
- ・ 本校でも SDG sについて取り組みを行っており、さらに詳しく説明してもらえより理解が深まった。
- ・ 最新の情報もあり勉強になった、子供達には少し難しいような言葉もあったがよいきっかけになった。
- ・ 環境というテーマに沿った「SDG s」の項目に触れ、世界の目標を自分事としてとらえることができたと思う。生徒達は今後の目標に向かって自分達でも出来ることがあると考え実践する意識を持つことができた。
- ・ 生徒は SDG sについて浅くは知っているため一つを掘り下げてもらえてよかった。

②③ 「みんなのとんぼ池」の内容についてはいかがでしたか？

とても学びやすい 4	学びやすい 2	普通 0	学びにくい 0	とても学びにくかった 0	無記入 0
とても学びやすい 5	学びやすい 1	普通 0	学びにくい 0	とても学びにくかった 0	無記入 3

②⑤ ワークショップに学びやすかったと感じましたか？

とても学びやすい 3	学びやすい 3	普通 0	学びにくい 0	とても学びにくかった 0	無記入 3
とても学びやすい 7	学びやすい 1	普通 0	学びにくい 0	とても学びにくかった 0	無記入 1

②⑥ 従来の座学の授業と比較して、今回のアクティビティを通じての理解度はどう変わりましたか？

大幅に向上した 5	向上した 1	あまり変わらなかった 0	悪化した 0	大幅に悪化した 0	無記入 0
大幅に向上した 7	向上した 1	あまり変わらなかった 0	悪化した 0	大幅に悪化した 0	無記入 1

②⑦ アクティビティを通じての学びについて、講師のサポートや説明に満足しましたか？

とても満足 3	満足 3	どちらとも言えない 0	不満 0	とても不満 0	無記入 2
とても満足 7	満足 1	どちらとも言えない 0	不満 0	とても不満 0	無記入 1

②⑧ 講師と生徒とのコミュニケーションの質については満足しましたか？

とても満足 3	満足 3	どちらとも言えない 0	不満 0	とても不満 0	無記入 0
とても満足 8	満足 0	どちらとも言えない 0	不満 0	とても不満 0	無記入 1

②⑨ 質問に対する講師の応答について満足しましたか？

とても満足 3	満足 3	どちらとも言えない 0	不満 0	とても不満 0	無記入 0
とても満足 8	満足 1	どちらとも言えない 0	不満 0	とても不満 0	無記入 0

③⑩ 教材は使いやすかったですか？（パンフレット・クイズ）

とても満足 3	満足 3	どちらとも言えない 0	不満 0	とても不満 0	無記入 0
とても満足 8	満足 0	どちらとも言えない 0	不満 0	とても不満 0	無記入 1

③⑪ 今後もこのようなアクティビティ型の授業があれば受講したいと思いますか？

はい 14	どちらとも言えない 0	いいえ 0	無記入 2
はい 8	どちらとも言えない 0	いいえ 0	無記入 1

②④ 「みんなのとんぼ池」の説明について、気づいた点があればご教示ください。

- ・ 丁寧に説明してくださったのでわかりやすかった
- ・ 役割決めからやり方まで多くの説明が必要で複雑なので4年生には不安があったが、子供たちはよく考えて行っていた
- ・ 今までの学習を活用しながら、どのような街や池を作るとよいのか、仲間と対話しながら学ぶ姿があった。学年や人数にもよるが活動ごとに区切りを入れることだけでなく、活動の目的や見通しを持てるように手順を簡潔にスクリーンに映し出すといいと思う。

③① 改善点をご教示ください。

- ・ 子供たちが理由づけて主張している様子に感動した、最後にグループごとにつなげこの池はやがて海につながるため一つの場所さえよければよいのではないということがとてもわかりやすかった。
- ・ 今年度のようにまたお願いできたらと考えている
- ・ 一歩ずつ専門の方が回っていて大変わかりやすかった。順に水を汚していくのが面白くわかりやすい。
- ・

水生生物調査等体験授業について （こちらは河川環境楽園で体験活動行った4校に聞いています）

③③ 「水生生物調査」の内容についてはいかがでしたか

とても学びやすい 4	学びやすい 0	普通 0	学びにくい 0	とても学びにくかった 0	無記入 0
とても学びやすい 4	学びやすい 0	普通 0	学びにくい 0	とても学びにくかった 0	無記入 0

③④ 水生生物調査や教室の同定について学びやすかったと感じますか

とても学びやすい 4	学びやすい 0	普通 0	学びにくい 0	とても学びにくかった 0	無記入 0
とても学びやすい 4	学びやすい 0	普通 0	学びにくい 0	とても学びにくかった 0	無記入 0

③⑤ 従来の体験を通しての川や生物への理解度はどうかわりましたか

大幅に向上した 4	向上した 0	あまり変わらなかった 0	悪化した 0	大幅に悪化した 0	無記入 0
大幅に向上した 4	向上した 0	あまり変わらなかった 0	悪化した 0	大幅に悪化した 0	無記入 0

- ・ 実際に水生生物を捕まえて調査できるのがよかった
- ・ 自分たちの住む川の水生生物と比べることができよかった、自分の地域の川はとてもきれいということがわかり、自分の地域だけでなく岐阜県も誇りに感じることもできたようだった

専門家の方でないといけないことが多いので大変ありがたかった、じゃぶじゃぶ池の活動は1クラス2名ほどついてもらえたら助かる

41 改善点をご教授ください

- ・ なし。多くの水生生物を通して調査することができ大満足だった
- ・ プレゼン写真が少し見にくいところがあったためもっと大きくしてほしい
- ・ 各学校が2時間×3回のアクティビティを取り入れた授業が支持され受講したいと考えていること
- ・ このプログラムを受けることにより今回の水の学習が学びやすく学習が向上したと考えていること
- ・ このプログラムは、満足度が高い。

河川基金を活用してプログラムを行っている学校は継続校が多く、指導案によって内容が大まかに理解されて折り、2度目の担当の先生が多い。

当 NPO が担当の先生と必ず打ち合わせを行い、今年度の目標を共有しています。

3.川づくり団体部門

[実施箇所位置図]

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2023-6111-008	「川でつながる SDGs の学び」身近な川から『地球環境のつながり』を知る	特定非営利活動法人 e-plus 生涯学習研究所 小林由紀子
主な実施箇所	各務原市河川環境楽園 各学校	
助成事業の主な実施箇所		
河川基金ロゴ等表示状況写真	遠景	近景

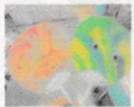
8月22日 笠松町 夏休み講座
和紙と川とマーブリングと

日本の夏を風流に！ **和紙でうちわづくり**
講師 小林由紀子 様

No.27 | 8/22 (火) | 13:30~15:30 | 笠松中央公民館 | 親子5組

◇和紙をマーブリングや草木染めの体験をして、素敵なうちわを作ります。
◇和紙に触れながら、和紙の性質や歴史などを学びます。和紙の魅力を肌で感じよう。
◇自分だけのオリジナルうちわが作れます。

<持ち物>筆記用具
<材料費> 無料
協力：特許 e-plus 生涯学習研究所





関市夏休み 水の工作マーブリング 海洋プラスチック・地域の川と歴史

親子環境セミナー
～川を大切に 海も守ろう～
和紙を染めよう！水の工作マーブリング
& 海洋プラスチックと川の話

日時 令和5年 8月26日(土)
①10:00~11:30 ②13:00~14:30

場所 わかくさ・プラザ
学習情報館2階 創作実習室

対象 小学生の親子 各10組

参加費 無料

持ち物 筆記用具、新聞紙(ある方のみ)、手ふきタオル

講師 NPO法人e-plus生涯学習研究所 小林由紀子さん
この講座はNPO法人e-plus生涯学習研究所が
河川基金を活用して開催と協力して開催しています

お申し込み・お問い合わせ
関市役所 環境課 ☎0575-23-6732 お申し込みはこちら
#kankyo@city.saki.lg.jp





10月15日 関市環境フェア

かんまきょうフェアせま2023

2023.10.15 SUN
am 10:00 - pm 3:00
関市文化会館



協賛
株式会社新東建設
中森森林組合
豊実精工株式会社



e-kamon 美濃加茂環境フェア2023

日時 **10月21日(土)** 会場 **ぎふ清流里山公園 屋根付き広場周辺**

9時30分～15時00分 入場料 **無料**

屋根付き広場イベント

- 9:30～ オープニングセレモニー
- 10:00～ 美濃加茂市環境学習推進委員会 主催 環境学習推進委員会 協賛
- 11:00～ 環境学習推進委員会 主催 環境学習推進委員会 協賛
- 13:00～ 環境学習推進委員会 主催 環境学習推進委員会 協賛
- 14:30～ スタンダートで遊ぶよ！ 大発表

この辺りの貴重な植物相とシカの食害の脅威

未来に残そう加茂の自然 暮らしのそばにSDGs

生物多様性コーナー

地域の食材を紹介！
「食育食育」の森の恵み
「食育食育」の森の恵み
「食育食育」の森の恵み

ふれあふ 加茂の自然！ミニミニ水鏡
野生動物はく製展示(クマ、シカ)
野生動物はく製展示(クマ、シカ)

つたえあふ 高校生が考える生物多様性
高校生が考える生物多様性
高校生が考える生物多様性

えらばあふ 環境材料を使った体験コーナー
環境材料を使った体験コーナー
環境材料を使った体験コーナー

美濃加茂市環境学習推進委員会 主催
美濃加茂市環境学習推進委員会 協賛
美濃加茂市環境学習推進委員会 協賛



美濃加茂市水クリスマスリース作り 水を豊かにする森と木の観察会

水を豊かにする木の観察会 クリスマスリースづくり

どんぐりや木の実を拾う自然観察や、自然の素材を使ったクリスマスリースづくりをします！

11/25(土) 13:00～15:30

場所 **ぎふ清流里山公園 飛騨路**

↓ 講師 **美濃加茂自然史研究会 安藤 志郎さん**

NPO 法人 e-plus 生涯学習研究所 小林 由紀子さん

申込 **11/17(金)まで 直接またはお電話で受付中**

費用 **親子15組**

定員 **親子15組**

電話 **0574-25-2111 (内線 307)**

河川 公益財団法人河川財団による
基金 河川基金の助成を受けています。



2月25日 御嵩町環境フェア2024

御嵩町環境フェア2024

令和6年 **2/25日** 9:00～12:30

みなでエコタイム

近隣休業や営業の環境に関する取組を展示
町内の小中学校などによる環境学習成果展示、各種体験コーナーを準備しています
ぜひご来場ください

会場 **御嵩小学校体育館・中庭** (御嵩町2628)
(駐車場) 御嵩小学校運動場・御嵩町役場
飲食の振舞いはありません
その他 くつろぎとマイバグをご持参ください

タイムスケジュール

- 9:30 先着50名に汚泥再生乾燥肥料の配布 (1家1組)
- 10:00 先着50名に苗木の配布 (苗木は御嵩町環境学習推進委員会による)
- 10:30 プルペーパーの苗木の配布(1家1組)
- 11:15 スターモーター・くまのダンスステージ
- 11:15 環境モデル都市交流修験プロジェクト報告会 (DVD上映)
- 12:00 環境モデル都市作品発表会
- 12:15 リサイクル自転車講座修験会 (入場無料・予約不要)

クイズラリー開催!!

参加するともらえるオリジナルエコバッグがもらえるよ！

2/10(日) 可児川クリーンキャンペーン開催!!

可児川クリーンキャンペーンとして、2/10(日)の午前中に可児川沿いの清掃活動を行います。

主催 環境省 環境政策推進フェア協力委員会
お問い合わせ 御嵩町環境フェア推進委員会
電話0574-67-2111 (内線2242)

